

「CSR報告書2012」を読んで



2012年 7月25日
神戸大学大学院
経営学研究科教授
國部 克彦

1. 「選ばれる京阪」への着実な歩み

創立100周年(2006年)に、2020年を見据えた将来像である京阪グループ経営ビジョン「「選ばれる京阪」への挑戦」コンセプトを発表され、ビジョンの実現に向けて行動されています。なかでも「安全」を最重視し、「CSR」「環境」を重要な基盤として位置づけ、活動されています。2011年度は双方向コミュニケーションに力を入れられ、外部からの意見を取り入れる姿勢を明確に打ち出し、第三者委員会も開催されました。広く意見を聞くことは大切です。次はそれらの意見をどのように経営活動に取り入れ、外部の視点を経営判断に反映させていくかが課題になると考えます。また京阪グループが「選ばれる京阪」像をどのようにイメージしているのか、どのような道筋でそこへ向かうのかについて、選ぶ立場にある人々とコミュニケーションをとることで、ビジョンを明確に示し共感を得られるのではないかと期待しています。

2. CSR経営の具体化へ

CSRレポートのなかで「安全」と「環境」については、具体的な年次目標と評価の一覧が記載されています。具体的な項目や課題が見え、その進捗状況が分かるようになっており、現在の京阪グループの姿が良くわかります。社会活動についても、公共責任の高い事業体として、まじめに努力されている姿がうかがえます。「社会」の項目についても一覧評価があれば、より分かりやすくなると思います。さらに、指標の定量化をできるところから進められれば、より体系的な管理が進められると考えます。そのような対応をすることによって、将来的には統合レポート[※]などの水準を目指すこともできるようになるでしょう。また、この面では、もっともっと多くの社内外の関係者に登場してもらうことも、CSR活動の強化のために検討されて良いと思います。

3. 省エネ社会への対応

電力が不足する状況下、現在行っている節電対応をさらに進めなければなりません。そのためにはステイクホルダーの理解と共感を得ることが重要となります。電力消費の多くを占める鉄道電力において、削減可能な部分は外気温が一番大きな変動要因であることから、既にコミュニケーションを重視されていますが、今後は特に鉄道利用者へのより一層の啓発活動とコミュニケーションが必要になると思われます。京阪電気鉄道では、早くから環境保全の観点にたち低炭素社会を目指した取組を実施されていますが、今後はエネルギー問題をより広く啓発する意味でも、沿線地域全体の問題として、率先して推進されることを期待しています。

※統合レポート:欧州を中心に進められているアニュアルレポートとサステナビリティレポートを統合した報告形式

第三者意見を受けて

この度は貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。本年はステイクホルダーの皆さまとのコミュニケーションを深めたいとの思いから、新たに第三者委員会を開催するなどの試みを実施し、幅広いご意見を頂戴しました。今後、皆さまからいただいたご意見を参考に、CSR活動を見直すとともに、より多くの社内外の関係者とのコミュニケーションを深め、京阪グループCSR活動を強化することを検討していきたいと思っております。

また、昨今の電力供給事情から、節電対策として省エネルギー車両の導入や、エネルギー原単位の削減を進めてまい

りました。駅照明の減灯や、エスカレーターの一部休止など、ご利用の皆さまにはご不便をおかけしたことと存じますが、目標を上回る節電成果をあげることができました。今後も鉄道事業者として、「安全」を最重視するとともに「環境」保全の観点にたち、沿線地域全体の問題として、省エネルギーや公共交通利用促進その他、環境負荷低減を目指した取り組みを進めていきたいと考えております。

平成24(2012)年7月

京阪電気鉄道株式会社
経営統括室 経営政策担当 部長 三杉 学